

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

- 多様な進路希望を持った生徒の自己実現を可能にする県内トップレベルの進学校
○ 文武不岐の伝統に基づき活気あふれる特別活動等が展開される学校
○ 豊かな人間性とたくましさを持った生徒が、自主的・自立的・意欲的に生き生きと活動する学校
○ 保護者、地域社会から支持され信頼される開かれた学校

各学校で定める目標と育成する資質・能力

探究の見方・考え方を働かせ、地域社会や地球規模の問題を総合的に学習する過程を通して、自己の在り方生き方を考えながら、世の中の問題を自らに直結する課題として捉え、適切に解決するための思考と行動とができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。
(1) 地域社会や地球規模の問題に関わる探究の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、現実に社会で起こっている問題が自己の生活とつながりがあるものであることに気付く。
(2) 地域社会や地球規模の問題を自らに直結する課題として捉えた上で、複雑に絡んだ事象から問題の因果関係を論理的に抽出したり、その解決のために情報を集めて分析したりする力を身に付けるとともに、探究の結果を論理的にまとめ、表現する力を身に付ける。
(3) 地域社会や地球規模の問題についての探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、自分たちが持続可能な社会の担い手であることを自覚し、社会に貢献しようとする態度を育てる。

総合的な探究の時間の学習評価

- ・ 月初めに月ごとの学習活動の目標や内容、評価の観点について指導担当者間で情報を共有する。
・ 時間ごとのワークシートや中間発表、成果発表プレゼンテーションへの取り組み、振り返りシートやレポートを評価の対象とする。
・ 中間発表時の相互評価や、成果発表プレゼンテーション後の聞き手からの評価シートの内容も評価に加味する。

生徒の実態

- ・ 大多数の生徒が、大学への進学を目指している。
・ 社会課題に向き合おうとする意思はあるが、向き合い方がわからず、主体的な行動を起こすことを躊躇する生徒が多い。
・ 学校行事等、意欲的に取り組む生徒が多い。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

- 1 個々の生徒への面談
2 必要に応じカウンセリングを実施
3 授業・教材のユニバーサルデザイン化の促進
4 職員間の綿密な情報共有

目指す生徒の姿

地域社会をはじめとする現実の問題について、自らに直結する課題として捉え、その解決のために主体的に思考し、行動することができる生徒。

各学校が定める内容(目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力)

- 1年次 問題・課題を設定する力の育成
(1) 社会・地域の仕組みをふまえて、適切かつ具体的に問題・課題を設定する力の育成
(2) 課題設定/解決プロセスの体験を通じた、自ら社会課題を実践する主体性の育成
(3) 設定課題を整理・分析し、課題解決しうる適切なスマートフォンアプリケーションを設計する力の育成
○2年次 地域課題へ積極的に関わろうとする主体性の育成
(1) 社会・地域の仕組みをふまえて、適切かつ具体的に問題・課題を設定する力の育成
(2) 課題設定/解決プロセスの体験を通じ、自ら社会課題を実践していく主体性の育成
(3) 行政や企業と連携し、課題の解決の実践による探究の高度化
○3年次 自己の課題認識の深化とキャリアプランニング
(1) 自らの課題意識に基づく、主体的なキャリア選択の実践
(2) 将来の社会貢献を見据えた職業の選択と自己実現
(3) 働くことの意味や価値、社会的責任に対する理解の深化

学習活動、指導方法等

- 1年次
・株式会社 IRODORI の「ワガママ Lab」という学習プログラムを通じて、「適切かつ具体的に問題・課題を設定する手法」や「スマートフォンアプリケーションの設計」「スマートフォンアプリケーションのプログラミング」について学ぶ。
・中間発表、成果発表における、生徒同士による意見交換
・市役所職員に向けたアイデアのプレゼンとそれに基づく指導・助言
○2年次
・株式会社 IRODORI の「ワガママ Lab」という学習プログラムを通じて、「適切かつ具体的に問題・課題を設定する手法」や「スマートフォンアプリケーションの設計」「スマートフォンアプリケーションのプログラミング」について学ぶ。
・行政や企業と協働し、より実践的な課題解決の方策を探究する。
○3年次
・1・2年次までに身につけた探究的な手法を活用し、自らの将来のキャリア選択について課題を明確にする。
・オープンキャンパス等を活用した大学訪問の実施。
【指導方法】
・1年次はスマートフォンアプリの設計を通じて、課題設定の手法やプログラミングのスキルを育成する。
・2年次は、1年次で学んだ探究の手法を土台として、行政や企業との連携がより効果的となるよう指導する。
・3年次は、生徒とのコミュニケーションを密にし、生徒一人ひとりのニーズに応じた個別最適な指導を実践する。

指導体制(環境整備、家庭・地域との連携)

- ・ 全体計画の策定……教務部・進路指導部・総務企画部が担当する。
・ 環境整備……DX ハイスクール事業と関連付け、総合的な探究の学習プログラムや ICT 関連設備を整備する。
・ 学習過程の情報共有と指導方法の研修……各年次会議(毎週1回)及び進路指導部主催の探究学習研修会(年1回)
・ 外部との連携……地域社会の課題について情報収集するために銚田市役所や企業と連携
……キャリア探究のために卒業生や大学と連携(進路指導部主催の職業講話・大学出張講義等)